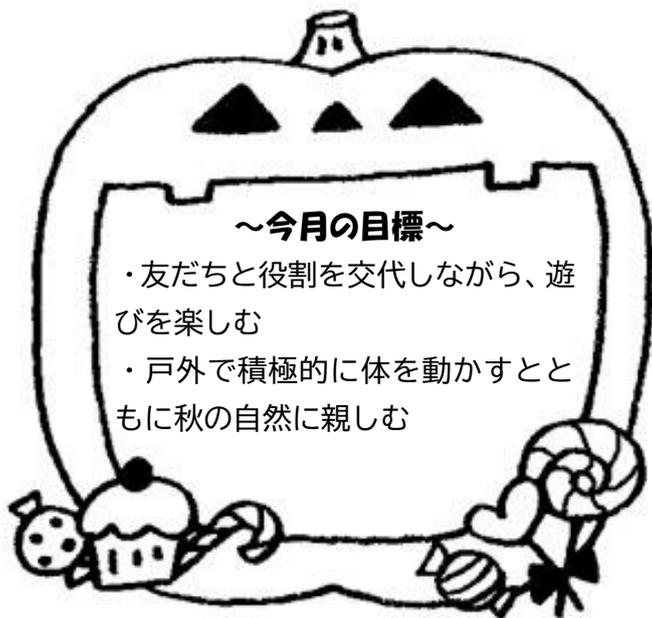




# 10月 ばらぐみだより

まれに見る猛暑もやっと落ち着き、見上げると澄んだ空の青さにやっと秋が訪れたを感じさせられます。なかなか外で存分に体を動かすことができずにいた子どもたちも、公園や園庭で「鬼ごっこしよう！」と誘い合いながら元気いっぱい走り回っています。今年度も半分が過ぎ、日頃の活動を通して成長した姿を運動会や発表会でお家の方に見せたい！と張り切っているばら組の子どもたち。憧れの「ひまわりぐみさん」への進級まであと半年です。「もう年長になるのに…」と心配なこともあるとは思いますが、皆それぞれのペースで一步一步、成長の階段を登っています！ぜひ温かい目で見守ってくださいね♪



### ～今月の目標～

- ・友だちと役割を交代しながら、遊びを楽しむ
- ・戸外で積極的に体を動かすとともに秋の自然に親しむ



**主体性・主体的って  
なんだろう？**

### できるようになったよ！

年度の初めから取り組んでいる鉄棒、跳び箱、けんけんぱ。はじめは「こわい」「できない」と言っていた子も少しずつ色々な技に挑戦できるようになりました。

【鉄棒】ぶら下がる、バーの上で自分の体重を支える、足をバーまで持ち上げる

【跳び箱】両足で踏み切る、両手をついて体を前に押し出す

【けんけんぱ】片足でジャンプする、歩幅や飛び距離の調節する

遊びの中で楽しみながら、このような動きを取り入れることで、体幹を養い、姿勢の保持にも繋がります。運動会では自分で選んだ種目をみんなの前で披露します。お楽しみに！

「子どもの主体性」や「主体的な子」といった言葉、聞いたことがある方も多いのではないのでしょうか？保育所保育指針の中でも、「幼児期の終わりまでに育ててほしい姿」として「自立心」を挙げ、「身近な環境に主体的に関わり様々な活動を楽しむ中で、(中略)考えたり、工夫したりしながら、諦めずにやり遂げることで達成感を味わい、自信を持って行動するようになる」と「主体的」という言葉を使っています。私たちが実践している「見守る保育」で、子どもたちの主体性を育むために取り入れているのが「選択性保育」です。散歩の行き先、給食をいつ食べるか、昼寝をするかしないか、など子どもたちは園で過ごす間に様々な選択をします。その上で大切にしているのが、なぜその選択をしたのか、自分の言葉で説明できるようになることです。運動遊びやダンスなどで汗をかいた子に「シャワーしようか」と声を掛けるとき、冷房の効いた部屋でブロックで静かに遊んでいた子が「シャワーやる」と来たら「汗かいてないけどやるの？」と訊ねます。逆に額から汗が滴っているにもかかわらず「シャワーやらない」という子には「汗で濡れた服を着ていると体が冷えちゃうよ。汗で痒くなっちゃうよ」と話し、本当にその選択が適切なのか再考を促します。「汗はかいてないけれど、さっぱりしたいから」、「シャワーは面倒臭いから、タオルで拭いて着替えだけする」、そんな声が聞こえたら、主体性の芽が出た！と私は心の中でガッツポーズをしています(^\_^)